

カルレス・ラマ&ソフィア・カブルジャ

連弾ピアノデュオ

カルレス・ラマとソフィア・カブルジャはクラシック音楽界の理想的模範であり、ヨーロッパの最も著名なピアノデュオである。

聴衆を涙させるほどのたぐいまれな才能は、オーディアンスのみならず、批評家からも絶賛される。無言の了承とでも言うべきか、二人が創り出す調和はすばらしい。カルレスとソフィアの、その技術、パッション、比類なき音色と、絶え間なくかもし出される優雅さはつねに賞賛のあたいがある。

クラシック音楽への深い理解と知識をもとに、カルレスとソフィアは今までにないユニークな連弾技術をつくりだした。オーケストラ的な色を保ちながら、自然なフレーズとトーンが深い調和をもたらす。

1987年に連弾を初めて以来、二人の実力は徐々に世界的に知られるようになり、カーネギーホール(ニューヨーク)、コラックメモリアルホール(ベオグラード)、テアトロリス(モンテビデオ)など、数々の有名な会場で演奏を行う。また、リサイタルも世界様々な都市で開催されている。その数は、パリ、ロンドン、マドリッド、ブリュッセル、ローマ、バルセロナ、ミラノ、プラハ、ベオグラード、東京、クアラランプール、上海、 Санктペテルブルグ、モスクワ、ブエノアリスなど、多数にのぼる。他に、ロンドンチェンバーオーケストラ、サオパウロシンフォニーオーケストラ、ナミュールチェンバーオーケストラ、東京チェンバーオーケストラ、マレーシアフィラモニックオーケストラ、エミューージュ美術館オーケストラなど、リサイタルを一緒に行ったオーケストラもかなりの数である。

カルレスとソフィアは、ともにスペインのカタルニャ州、ジローナ出身である。幼少の頃からすぐれた才能を発揮していた。バルセロナ音楽学校を卒業後、パリのエコール・ノルマルとアメリカ ハートフォード大学のハート音楽院で引き続き勉強に励む。そこで後に大きな影響を与えられる二人の教授にであった。ロシアのピアニスト、ニーナ スベットラノバとブラジルのピアニスト、ルイズ デ モーラ カストロである。

二人のレパートリーは広く、バッハにはじまり、21世紀スタイルのクラシック音楽、さらには、最も困難とされるオーケストラのピアノ連弾もひきこなす。ジョン カーマイケルやダニエル バソンバといった近代の作曲家たちとも親交を深めるにいたる。バソンバは、二人のために特別に作曲したほどである。

カルレスとソフィアは、シューベルトのファンタジーへ長調、ブラームスのワルツOp.39、ラマニノフの組曲Op.11、さらにオーストラリアの作曲家、ジョン カーマイケルの連弾全集といった、KNSクラシックディスクグラフィイーで絶賛される音楽家である。

さらに、二人は、クラシック音楽を広げるための音楽家の援助養成にも力をそそいでいる。チャリティーのコンサートやイベント、テレビを通しての活動も行われている。

音楽家養成への熱意は、イタリア、ギリシャ、ドイツ、フランス、中国、日本、シンガポールといった、ヨーロッパやアジア各国での講演やレクチャーにもあらわれている。

カルレスとソフィアの社会奉仕はさらに続き、2001年、ユニセフから栄誉賞を受賞し、マルガリータ デ ボルボン公爵夫人が授与を行った。